

スフレ通信

Support Office for Female Researchers

女性研究者支援室長より



女性研究者支援室長
(教育学部教授)
松岡 英子

信州の春の訪れは例年より遅いものの、希望の春が一時にやってきました。じっと春の到来を待っていた梅、あんず、桜のつぼみが時を同じくして開き、燃え上がるその姿に生命の息吹を感じます。新入生を迎えて、キャンパスも活気づいてきました。

昨年10月からスタートした女性研究者支援室スフレでは、半年間にたくさんの事業を実施することができました。教職員、学生の皆様のご協力とご理解に感謝申し上げます。支援室のスタッフはコーディネーター2名、支援員4名であり、さらに各部局の教員9名、人事課および教育学部の事務職員の方々に協力を戴いております。

昨年度の事業の詳細は「信州大学女性研究者研究活動支援事業 平成23年度活動報告書」をご覧ください。主なものを挙げ

ますと、男女共同参画シンポジウムやセミナーの開催、研究補助者制度の実施、各種刊行物の発行、DVDビデオ（学長・理事・室長インタビュー編、支援事業の紹介編など）の作成、などです。男女共同参画推進シンボルマークにつきましては、21点の応募があり、最優秀賞、優秀賞が決定しました。24年度は女性研究者研究活動支援事業も2年目を迎えます。本年度は昨年度の事業を継続していくと共に、メンター制度や相談事業、学長と女性研究者の懇話会、学

部単位の男女共同参画セミナー、管理職セミナー、ロールモデル集の作成などを計画しております。これらを通して、女性研究者比率の向上を目指しています。

信州大学男女共同参画宣言に基づき、女性研究者支援を基盤として、男女共同参画の推進に積極的に取り組み、男女が共にその能力を存分に発揮でき、多様な価値観を認め合える環境を目指して活動を展開して参ります。本年度も皆様の暖かいご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

スフレ SuFRE スタッフ



松本分室(総務部人事課内)
左から 中山、高山、岡田



長野分室(教育学部内)
左から 矢野、柏原、横山、小野

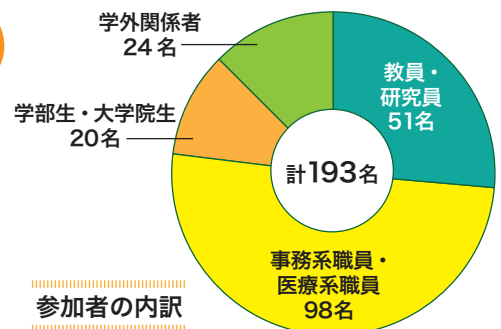
第2回 信州大学男女共同参画シンポジウム

参加者数
193名!

アンケートに答えていただきました!

新潟大学・長崎大学・岐阜大学の
男女共同参画先行事例を聴いた意見・感想

- 男性も育児に参加しやすい環境を広く整備してほしい。
- 教員** ● 女性研究者の復職支援として学び直しのシステムの構築も大切です。
- 人事配置に配慮があると、夫婦そろって子育てに関わることができる。
- すべては個人の意識改革につきと思う。
- 関心を持たれる啓発活動が必要。
- 職員** ● 教員ばかりでなく、職員とともに進む道を強調してほしい。
- 女性優遇の推進事業ではないことをもっと広げてほしい。
- 女性の副学長、理事も登用するべき。
- 学生** ● 男女共同参画について考えるよいきっかけとなった。



3大学から本学に取り入れたい事例は?

学生ボランティアによる保育支援、女性採用部局への経費配分、事務職員の再雇用制度、女性大学院生によるサイエンスセミナーの開催、女性教員限定の公募、ロールモデル集の作成、テクニカルスタッフの雇用制度など。

理系学部長のメッセージ

理 学部



武田 三男
理学部長

理学部では、平成19年度に文部科学省の「女子中高生の理系進路選択支援事業」に採択され、以下の2つを目的として平成19年度に『信州夏の学校「わたしもサイエンティスト!」』、翌年に『信州自然科学実験室「わたしもサイエンティスト! '08」』を実施しました。目的は(1)女子中高生に大学で行われている教育や研究を良く知ってもらい、信州の自然を生かした野外実習や演習・実験を実際に体験することを通じて、サイエンスに対する好奇心と興味を育て「サイエンス・マインド」の芽生えを期待する。(2)女性研究者や女子学生および女子大学院生と直に触れ合うことによって将来の進路を具体的に想像できるロールモデルを提示すること、です。

様子は次のウェブページでもご覧いただけます。

工 学部



大石 修治
工学部長

現在の工学部は、一昔前と違って女子学生が非常に増えました。理工系学部を目指して多くの女性が入学してくることは大変喜ばしいことであり、その中から研究者を目指す女性が数多く現われてくることを大いに期待しています。信州大学工学部は、女性研究者が自分の才能をさらに伸ばすことができる場でありたいと思っています。そのためには、採用の段階で優秀な女性研究者を起用し、女性研究者の増加に努めて参りたいと思います。

研究に励みながら、子育てや介護ができるような職場環境の整備は急務です。工学部の中にあつて、教職員がお互いを認め合いながらも、自分のやりたいことが遠慮なくできるようなやりがいのある職

繊維 学部



濱田 州博
繊維学部長

繊維学部では、大学院総合工学系研究科の母体である理学部、工学部、農学部とともに平成19年度から「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」事業に取り組み、4学部合計で23名のテニュアトラック教員を採用してきました。その内、上田キャンパス(繊維学部)では、13名を採用し、内女性教員は2名でした。女性教員の1名は、テニュアを獲得し、4月より准教授として繊維学部の教育研究に尽力しています。テニュアトラック制度が女性教員採用にどの様に効果があったかは、検証に時間がかかるとは思いますが、評価・審査の透明性、統一性、一貫性、公平性の徹底を重視した制度であり、一定の効果はあつ

市民公開講座を開催しました!

テーマ「医療人を目指す女性のために」



信州大学における理系学部の各学部長に女性研究者支援に関するお考えを聞きました。質問項目は以下の2点です。
Q1. 部局における女性研究者増加の取り組みや意気込み
Q2. 女性研究者支援室 (SuFRé) への要望や期待

http://science.shinshu-u.ac.jp/~girls/07girls/index.html
http://science.shinshu-u.ac.jp/~girls/

理学部に所属する女性教員は、今年度新たに1名赴任していただきましたので現在4名になりました。今後もあらゆる機会を通じて、少しでも女性教員の割合を上げてゆくこと並びに女性研究者の育成に努めてゆきます。また、このためには女性教員を含め女性の教職員が気持ち良く働くことのできる職場環境の整備が不可欠と考えています。

理工系分野では、学生および大学院生に占める女子学生の割合が低く、特に博士課程に進学する大学院生は極わずかしかいません。理工系の女性研究者を増やすためには、女子中高生から開拓してゆくことが、結局は早道と考えています。女性研究者支援室が中心となって、「女子中高生の理系進路選択支援事業等」の企画運営を積極的に行っていただくことを強く期待しています。

場作りを目指して努力する所存です。

工学部には女性研究者がいますが、まだまだ少数であり、大多数の男性研究者の中で、孤軍奮闘しています。そのような女性研究者の間に立って、同僚の男性研究者には言えない悩みや相談事がある時、支援室が仲介となつていただけるとありがたいと思います。他学部の女性研究者とのネットワークを作る手助けをしていただき、そのつながりの中で女性研究者の意見がもっと出せるようなしくみを構築していただきたいと思っています。また、工学部内でも、子育て支援としての託児所の整備や女性研究者への個室の教員室の確保等の意見もでています。女性研究者が子育てや介護をしながらでも、安心して教育や研究ができる環境整備にご尽力いただければありがたいと存じます。

たのではないかと推察できます。今後とも透明性、統一性、一貫性、公平性をアピールしながら採用を行っていきたくと考えております。

博士号の取得が教員になるための条件ですので、博士課程学生の女性比率を高めることが一つの課題です。現在、信州大学では、テニュアトラック制度の普及・定着事業に加えて、平成21年度から「イノベーション創出若手研究人材養成」事業を推進しており、狭い学問分野だけではなく、幅広い視野や実社会のニーズを踏まえた思考を身につけた博士課程修了生を養成しております。これら事業を男女共同参画事業と連動させて進めていくことでより一層の効果が生まれると期待されます。ぜひこの連動についてご考慮いただければと思っております。

平成24年4月1日(日)、第89回日本生理学会大会主催・信州大学男女共同参画推進委員会及び山梨大学共催の「市民公開講座」を長野県松本文化会館にて開催しました。

大会長の橋本俊夫教授(医学部器官制御生理学講座)、男女共同参画事業推進委員長の山沢清人学長、福嶋義光医学部長の挨拶に続いて、九州大学名誉教授・元副学長の水田祥代氏(現福岡歯科大学常任理事)、自治医科大学医学部長桃井真里子氏、信州大学医学部器官制御生理学講座河合佳子准教授の三氏が講演し、中高生と保護者、一般の方々およそ400名が聴講しました。講師からは、多様性を受け入れることに理由無き恐れを持つ日本の組織・社会全体があるが、多様性は変革と発展の一大要因であり、少子高齢化の中で女性職業人の育成は、日本の最重要課題であることや、女性研究者に向けたメッセージがありました。

医 学部



福嶋 義光
医学部長

医師のキャリアを考えた場合、医学部医学科を卒業するのが20歳代半ばで、その後、卒後臨床研修2年、専門医研修3~4年と続き、医師として立ち立って診療ができるようになるのは30代半ばになってからである。ちょうどその時期が、女性としての結婚・妊娠・出産・育児の時期と重なり、わが国においては、30代半ばの女性医師の約4分の1が医療に携わっておらず、医師不足の要因の一つとなっている。

保育所の整備など、女性医師が継続して仕事ができるようなハード面での施策を欠かすことはできないが、医学部では「予防」に力を入れている。医学部医学科に入学する学生は成績優秀であるが、自分自身のプライベートな人生設計をどの程度、具体的に考えているかという点、とても心許ない。医学部では医学概論の中で、「医師としてのキャリアを考える」という講義を行っており、その中で、女性医師のワーク・

農 学部



中村 宗一郎
農学部長

農学部では、この3年間に13名の助教(女性教員1名を含む)を採用しました。平成23年8月に採択された「テニュアトラック普及・定着事業では、趣旨の一つに“公正で透明性の高い選考を行うこと”が示されており、募集要項には、「男女共同参画社会基本法及び雇用機会均等法を遵守し、性差、国籍に左右されない業績本位の選考を行う」旨を明記し、国際公募を実施しました。その結果、最終選考(面接)までは複数の女性が残りましたが、採用までには至りませんでした。私は、大学教員は様々なバックグラウンドを持った人たちからなる“ヘテロ集団”であるべきだと強く信じております。今後も引き続き、女性教員や外国人教員の採用

ライフ・バランスについて取り上げている。結婚・妊娠・出産・育児の問題は、いつ当事者になるかもわからず、常に準備しておく必要がある。当事者になった際、どのような解決方法があるかを先輩の医師から聞いておくことも有意義であり、不定期に「女性医師と語る会」を催している。しかし、学生時代には、自分の問題として認識する女子学生は少なく、いかに参加者を増やしていくかが課題である。

医療に携わっていない30歳代の女性医師を対象に、その理由を聞いたところ、約7割は妊娠・出産・子育てのためであったが、約1割は、「働く必要がないから」であった。「働く必要がないから」というのは、自分中心の考えであり、医師としての社会的責務を全く自覚していない発言である。医師となったからには、男性でも女性でも、医師としての社会的責務を果たすべく、働きつづけるのだという強い意思を持ち続ける必要がある。信州大学医学部では、卒前教育の6年間を通じて、医師としてのプロフェッショナリズムを身につけさせる教育プログラムを開発・実践したいと考えている。

に向けて努力を続けていきたいと思っておりますので、ご支援のほどよろしくお願いたします。

この3年間に女性教員の採用が1名にとどまりましたが、教員集団は一気に若返りました。いずれの方も学位取得後に苦勞して念願のアカデミアでの職を得たという方が多く、着任を契機にご結婚された方や出産に踏み切られた方などを含め、本学部では今、“出産ラッシュ”が続いております。3歳以下のお子さんをお持ちの教職員は、扶養親族手当の確認だけでも、10名となりました。最近、奥様と共働きというある教員の方が幼いお子さん同伴で出勤されるのに出くわしました。お子さんをお持ちの女性職員もたくさん働いています。これらのことを考えると、本学部にも保育室が必要だと、強く感じている今日この頃です。

シンボルマークが決定しました!

このたびは、「信州大学の男女共同参画推進のためのシンボルマーク」の募集に際し、たくさんの方々にご協力いただきましたことを心よりお礼申し上げます。

21点の応募があり、女性研究者支援会議にて厳正な審査のうえ、応募作品の中から最優秀賞1点および優秀賞3点を決定いたしました。

最優秀賞の小柴様には3万円分、優秀賞の小幡様、太田様、大塚様には1万円分の図書カードを贈りました。

最優秀賞作品

兵庫県穴栗市
デザイナー 小柴 雅樹 様



男女共同参画推進
SHINSHU UNIVERSITY

●デザインの意図●

信州大学の頭文字「SU」をモチーフに、人権を尊重し責任を分かち合い元気に活動する男女の笑顔と、緑あふれる信州と、参画推進をあらわす「伸びる芽」を組み合せデザインしました。

優秀賞作品



ホームページを公開しました！

2012年3月30日に、信州大学男女共同参画のホームページを公開しました。このページでは男女共同参画に関する情報や刊行物を随時公開します。

また現在、女性研究者支援室^{スフレ}のホームページも公開に向けて作成中です。

- 信州大学男女共同参画ホームページ
<http://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/>
- 信州大学女性研究者支援室ホームページ^{スフレ}
<http://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/sufre/>



懇話会のお知らせ

- 学長と女性研究者の懇話会in松本●
日時：6月1日（金）14：40～16：10
会場：松本キャンパス
本部管理棟5階 第1会議室
 - 学長と女性研究者の懇話会in長野●
日時：6月26日（火）14：30～16：00
（Ⓛ開催日が変更になりました）
会場：長野（教育学部）キャンパス
中校舎2階 第1会議室
- 対象：本学の女性教員
申込・問合せ：女性研究者支援室^{スフレ}
TEL/FAX 026-238-4048

刊行物の紹介

信州大学男女共同参画宣言等リーフレット

2011年12月21日に制定されました「男女共同参画宣言」「男女共同参画基本方針」「男女共同参画行動計画」「女性教員比率向上のためのポジティブアクション」を掲載しています。



第1回信州大学男女共同参画シンポジウム開催報告

2011年11月25日松本キャンパスにて、「第1回信州大学男女共同参画シンポジウム」を開催しました。当時の文部科学省生涯学習政策局長板東久美子氏による講演とパネルディスカッションの様子を掲載しています。



育児・介護のためのガイドブック～制度と使い方～

育児・介護に関する休暇制度や制度利用方法、Q&Aなどを一冊のガイドブックにわかりやすくまとめました。知っておくと便利な情報が満載です。ご活用ください。



信州大学における男女共同参画の推進に関するアンケート調査結果概要

2011年3月に発行された「信州大学における男女共同参画の推進に関する調査研究プロジェクト報告書」の概要版です。



女性研究者研究活動支援事業平成23年度活動報告書

平成23年度に実施した活動の記録です。研究補助者制度の実施状況や女性研究者支援会議の議事録等を全84頁にまとめました。



女性研究者支援室事業概要リーフレット

^{スフレ}SuFREで行っている女性研究者支援事業をまとめたリーフレットです。信州大学の目標や「^{スフレ}SuFREにおける5つの取組」について紹介しています。



お問い合わせ

信州大学 女性研究者支援室^{スフレ} (SuFRE)

松本分室（総務部人事課内）
〒390-8621 松本市旭 3-1-1
TEL 0263-37-2167
FAX 0263-37-3314

長野分室（教育学部内）
〒380-8544
長野市西長野 6-口
TEL / FAX 026-238-4048

E-mail: sufre@shinshu-u.ac.jp
HP: <http://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/>

開室時間
9:00～17:00(月～金)

長野分室(教育学部内)案内図

